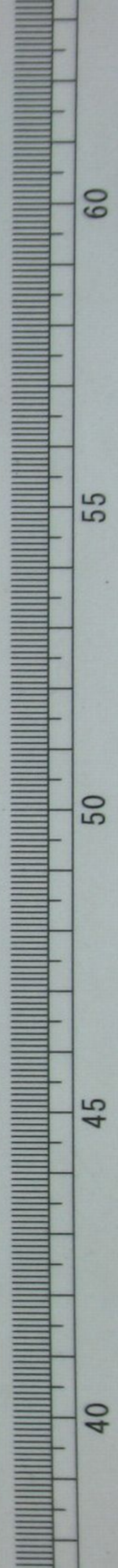
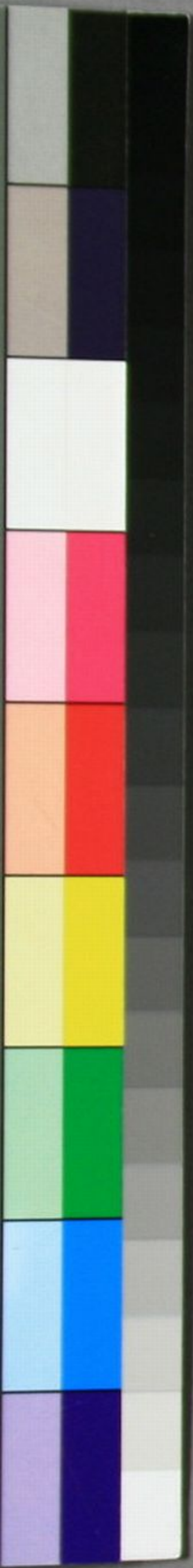


和歌  
古語深秘抄

正風神抄  
和奇庭訓

五

伊地知文庫  
文庫20  
324  
5



山内神抄

千載集

中一巻奇上

美乃雲の形傳の梅ととも家月を  
 ひろととも如海家こららこもこれ  
 十箇年くふよまもせ侍けり時花入  
 年とそよあか  
 見よしけむのありとくまも建い  
 うしのあふれよこまねうせそく  
 中三巻奇下

伊地知氏書冊



拾遺歌を言ふ時の平倉一節の

平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

平倉一節の平倉一節の平倉一節

よりのうらみわら秋のさきさき

秋のさきさきよあな

友原定成

去らばゆくよもの梅の色よるこを

秋のゆくゆくの思ひあはれなり

寛政六年

冬さきゆくよもの梅の色よるこを

美しげの雲入るところをさき

兼徳院一百首年暮りうらみ時

友原の年暮りよあな

梅さきゆくよもの梅の色よるこを

ゆきあはれまわりの雲さき

兼徳院一百首年暮りうらみ時

ゆきあはれまわりの雲さき

梅さきゆくよもの梅の色よるこを

ゆきあはれまわりの雲さき

兼徳院

梅さきゆくよもの梅の色よるこを

ゆきあはれまわりの雲さき

兼徳院

あはれとていふお川りゑん

才七 龍引

百首とていふお川りゑん  
いふお川りゑん

いふお川りゑん  
いふお川りゑん

才八 霧夜

海つとていふお川りゑん  
いふお川りゑん  
いふお川りゑん  
いふお川りゑん

あはれとていふお川りゑん

才十 賀正

いふお川りゑん  
いふお川りゑん

あはれとていふお川りゑん

いふお川りゑん  
いふお川りゑん

いふお川りゑん  
いふお川りゑん

才十一

日本書紀卷之...  
天智天皇...  
丁未三月...

天皇御宇...  
三月丁未...

庚十二夜ニ

夜ニ...  
天智天皇...

庚十三夜ニ

是日...  
天智天皇...

天皇御宇...  
三月丁未...

天皇御宇...  
三月丁未...

天皇御宇...  
三月丁未...

庚十四夜ニ

天皇御宇...  
三月丁未...

あしおのひよもやうく

梅段右大臣の御歌より  
あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく  
あしおのひよもやうく

中十六巻五

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

定歌

あしおのひよもやうく  
あしおのひよもやうく

中十六巻五

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

あしおのひよもやうく

ふれり一月はさしむるさる

二条院の時をたて給長所るト

とせりてしむるさる

いふれりさるるさるるさるる

いふれりさるるさるるさるる

才を 新古今

道世乃收花乃新古今

中のと乃ましそさるるさるる

花を新古今

花さるるは花さるるは花さるる

金堂のありむのさるるさるる

よき侍るは

ありふも侍るはをさるるさるる

らりふも侍るはをさるるさるる

急後法師のありむのさるるさるる

れ中よ花のありむのさるる

りさるる侍るはをさるるさるる

よき侍るはをさるるさるる

浦橋の百首をれ中よ侍るは

とせりてしむるさる





物故品の処分を以て

更に入札を以て 一〇月一〇日  
迄此の如くのとす

才二十社旅

ついでに知りぬる方とて作りの  
ねをさしりしとあるは

日社乃社の書乃を合乃付月乃

文乃を以て

本乃川乃出乃は乃世乃の書乃を

と乃乃と乃乃乃秋乃の月

新勅撰和弁集才二

名と名乃一〇のありし書乃乃

と乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

花園白家弁合乃乃乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

右門書乃乃

ついでに知りぬる方とて作りの

ねをさしりしとあるは

才二十社旅

寛政元年廿九日屏風

久々のうらやまのあはれ  
免乃望りさうよそくせん

寛政元年十月廿九日屏風

ゆきまをよめりぬ

石巻門書

あうさ目のあはれ  
あはれさうよめりぬ

あはれさうよめりぬ

才也 秋亭上

あはれさうよめりぬ

秋乃のあはれさうよめりぬ

秋乃のあはれさうよめりぬ

秋乃

あはれさうよめりぬ

秋乃のあはれさうよめりぬ

秋乃のあはれさうよめりぬ

秋乃のあはれさうよめりぬ

秋乃のあはれさうよめりぬ

秋乃のあはれさうよめりぬ

才也 秋亭下

六部抄上

ふのむのこころも秋十箇年一はる  
まうのせらぎ

右巻門書

行累のそりの本乃もあも久此もあ  
いさ回の甲一ぬとやあ  
・園白乃大長歌年一よとゆふか  
あらまう神一ゆさぬ秋乃白よ  
ささささしひらのふさきひらめ  
あふたふさあ  
あむの年一よとゆりらよ

右巻門書

あきまういあううしやの物るまう  
よし乃ぬのま乃ううぬ日そさあ  
泥絵屏風を唐の所時あ  
あしきう一あ一もあさう行乃  
あはるや人のうさうさうさうの  
あはるあき年一  
あしきあき年乃流のうさうさう  
あしきあき年乃流のうさうさう

右巻門書

六部抄上

六部抄上

わく心乃日くけの委乃乃むう  
くしそきしひうきしひうきし

才十五 急二

建保六年 倉庫一ノ久急二

くしそきしひうきし

あしそあしよのふはよさ

あしそあしよのふはよさ

才十五 急三

あしそあしよのふはよさ

あしそあしよのふはよさ

月

くしそあしよのふはよさ

くしそあしよのふはよさ

才十五 急六

建保六年 内裏方合年

あしそあしよのふはよさ

あしそあしよのふはよさ

あしそあしよのふはよさ

あしそあしよのふはよさ

あしそあしよのふはよさ

才十六 雜事一

元暦の三月十日に賀正重保への  
手紙に「あはれに社名のなかに合しぬを  
かよ月とよめか

あはれくともやあはれぬじりの秋とく  
にけりしことなるに月とよめ

才十七 雜事三

卷のなかに記さしきまつてゆり  
うらみしうらみかたにつくさるる  
て卯紀のまかりしにまのりてゆり

海邊が民乃はりまのりてまの  
うらみまのりてあはれなり

園白花大匠百首集

眺らしの字

百首のまのりを物かよひし  
まのりぬむじふらりて月

續後撰和歌集

才一 美事一

建保二の陽字とあはれなり

江上美らし 春深る哉

人とりてえまもわらん 玉津小嶋  
子もむらりゆり美のあき津の

中二美乎中一

洞院栲樹百首平下は花と

ゆいふふゆふらさくく 鶯のうら  
ゆふふゆふゆふゆふゆふ  
あふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ  
花々のののの

しゆふくゆふゆふゆふゆふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

中四美乎

あふふふふふふふふふふふふ  
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

中六美乎

秋ふふふふふふふふふふふふ  
ふふふふふふふふふふふふ

中七美乎下

寛治九年己未入内膳同よお美

三回山一まきのゆららの文母しを  
一しきぬぬの文短見ら一かたの文

建永二年九月拾日とありき

信一対山力中興

そめとあくとあつとまいたの向ふ  
ゆらぬとやねととととと

才九部族一

入道前持政公命一取西月

中流川部代乃候之けととと  
今しとととぬぬの取志月

乃一めととと痛乃取村ありよとあ  
とととととととととととととと

と和言よまりて格やよ日吉社

ととととととととととと

若らへの也やのとととととととと

しつあつとととととととととと

才上とととととと

森茂

とととととととととととととと  
とととととととととととととと



才十一急三

急乃字此中一

あふまゝの急そいぢらゝ  
と一月あゝ物あゝと

中十一急三

あふまゝの急そいぢらゝ  
と一月あゝ物あゝと  
あふまゝの急そいぢらゝ  
と一月あゝ物あゝと  
あふまゝの急そいぢらゝ  
と一月あゝ物あゝと

うろたゆまゝと急三

中十一急三

あふまゝの急そいぢらゝ  
と一月あゝ物あゝと  
あふまゝの急そいぢらゝ  
と一月あゝ物あゝと

福地正

十六卷

如惠雲院敷淨自筆奉令

書寫海一授早一

毎月の序百首〜一見せ〜めいね  
九は夜の出〜一海〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一  
〜一〜一〜一〜一〜一〜一〜一

六部抄

三十五



まの神おんまゝにさして西御化あるくく  
元乃海とくくゆり飛し十歳より一  
也ま極事一と極濃極さふ神こけの  
一し平一とゆかひのゆかひさりあ  
ゆらしゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
あふれがく極一とゆかひのゆかひさ  
一あそく一あそくあそくあそくあそく極  
見極面白極一と極濃極さふ神  
はゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
極鬼極さふゆら

まの神おんまゝにさして西御化あるくく  
元乃海とくくゆり飛し十歳より一  
也ま極事一と極濃極さふ神こけの  
一し平一とゆかひのゆかひさりあ  
ゆらしゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
あふれがく極一とゆかひのゆかひさ  
一あそく一あそくあそくあそくあそく極  
見極面白極一と極濃極さふ神  
はゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆらゆら  
極鬼極さふゆら

あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を

あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を  
あはれなる心なりて花と月を



く...  
 急...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

六世抄  
 十

五  
 九

...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...  
 ...

六世抄  
 十

五  
 九





一と後とよくあはれしと云ふしと云ふにあへ  
 せしむるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 らしむるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 のと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 せしむるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 よと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 うんといふしと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 むと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 のと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 今の御代にいとあはれしと云ふるにいとあはれ

一と後とよくあはれしと云ふしと云ふにあへ  
 せしむるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 らしむるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 のと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 せしむるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 よと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 うんといふしと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 むと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 のと云ふるにいとあはれしと云ふるにいとあはれ  
 今の御代にいとあはれしと云ふるにいとあはれ

とも世のひ合へりて世にりて時  
 いらぬのほろよひにけりてまうし  
 といふいふいふいふいふいふ  
 けりて押さへりていふいふいふ  
 せん世の海にりて今こそ世にりて  
 まよひんやいふまよひの極にりて  
 万劫にりていふいふいふいふ  
 神の力にりていふいふいふいふ  
 又そのまよひいふいふいふいふ  
 世にしていふいふいふいふいふ

とも世のひ合へりて世にりて時  
 いらぬのほろよひにけりてまうし  
 といふいふいふいふいふいふ  
 けりて押さへりていふいふいふ  
 せん世の海にりて今こそ世にりて  
 まよひんやいふまよひの極にりて  
 万劫にりていふいふいふいふ  
 神の力にりていふいふいふいふ  
 又そのまよひいふいふいふいふ  
 世にしていふいふいふいふいふ





のまゝにうつりてくるものなり  
 といふは、この病は、  
 きんぐの如く、  
 く、  
 又、  
 白、  
 収、  
 結、  
 と、  
 志、

とも、  
 ひ、  
 あ、  
 て、  
 の、  
 の、  
 と、  
 病、  
 の、



Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately 12 lines. The ink is dark and the paper shows signs of age.





Handwritten text in Kuzushiji style, consisting of approximately 15 lines of vertical script.

Handwritten text in Kuzushiji style, consisting of approximately 15 lines of vertical script.





ことしちかへんてはふもあはれ  
 難波のふりかへりてはふもあはれ  
 平のふりかへりてはふもあはれ  
 ちのふりかへりてはふもあはれ  
 むのふりかへりてはふもあはれ  
 こゝろのふりかへりてはふもあはれ  
 ちのふりかへりてはふもあはれ  
 むのふりかへりてはふもあはれ  
 こゝろのふりかへりてはふもあはれ  
 ちのふりかへりてはふもあはれ  
 むのふりかへりてはふもあはれ  
 こゝろのふりかへりてはふもあはれ

ことしちかへんてはふもあはれ  
 難波のふりかへりてはふもあはれ  
 平のふりかへりてはふもあはれ  
 ちのふりかへりてはふもあはれ  
 むのふりかへりてはふもあはれ  
 こゝろのふりかへりてはふもあはれ  
 ちのふりかへりてはふもあはれ  
 むのふりかへりてはふもあはれ  
 こゝろのふりかへりてはふもあはれ  
 ちのふりかへりてはふもあはれ  
 むのふりかへりてはふもあはれ  
 こゝろのふりかへりてはふもあはれ  
 ちのふりかへりてはふもあはれ  
 むのふりかへりてはふもあはれ  
 こゝろのふりかへりてはふもあはれ

六部中

細くかきしめしむる髪髻と云ふはさう  
そよよとわらわらとまじりしよと云ふはさう  
ひよよとわらわらとまじりしよと云ふはさう  
あしとまじりしよと云ふはさうと云ふはさう  
つまはれぬと云ふはさうと云ふはさうと云ふはさう  
年未だ終りの道と云ふはさうと云ふはさうと云ふはさう  
他方月と云ふはさうと云ふはさうと云ふはさうと云ふはさう  
さうと云ふはさうと云ふはさうと云ふはさうと云ふはさう  
あしと云ふはさうと云ふはさうと云ふはさうと云ふはさう

六部中

建永四年五月十日以彼字奉禁忽云  
写之此是初者京極入道中納言令賜  
故衣笠内府汗と、糸と、くち巻一  
甚源や下秘と

桑本門懸後

文明九年三月五日以式秘辛令書  
々和介之秘傳尚通之奧旨也治  
為為知之抄文止之起料尔者平

持達源通秀

日十七年小春上九夜焼下一時終功  
は中院一名通秀自筆也依或  
人々之令書之也

兼門宗瑞 在判

以是令續合既下わが續奉決

きれりんせりし教りぬ

三つにた乃

わんはしうふい

とてい

るり

とて

